

## 平成 30 年度事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 パシフィカ・ルネサンス

### 1. 平成 30 年度の活動の概要

NPO 法人設立から 5 年目となり、ミクロネシア連邦ポーンペイ州における現地での活動とオセアニア島嶼国の人々を対象としたインターネットでの情報提供や協働を中心に継続的に行った。特にオセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業とオセアニアの関連機関・団体への技術協力事業に力を入れて活動した。当 NPO の本来の目的たる事業、特にポーンペイ州での事業は順調に展開しつつあるが、NPO の厳しい財政状況は変わらず、今後継続的な活動を行うために広報活動に更なる努力が必要である。当 NPO はまだ財政・人力的に十分とは言えないため、ミッションに賛同するオセアニアの団体や個人との連携の道を探っており、私達の活動の他地域への拡大や波及効果を狙っている。

### 2. 事業の成果

#### (1) 特定非営利活動に掛かる事業

#### ①オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業

##### ◆ポーンペイ州での口承伝承の記録

今年度も、長岡代表理事はポーンペイ島において消滅しつつある口承伝承を老人からビデオにより記録し、その語りの動画をインターネットで配信するプロジェクトを平成 30 年 4 月～6 月と同年 8 月～今年度末（平成 31 年 7 月帰国予定）の 2 期間にわたり、ポーンペイ州の文化行政を担当する同州歴史保存局と協働で行った（図 1・図 2）。記録した語りの動画は、ポーンペイとともに米国在住（ミクロネシア連邦全人口の 3 分の 1 が出稼ぎに出ている）のポーンペイ人が見ることができるよう、NPO のユーチューブ・チャンネル (<https://goo.gl/q89XA5>) で公開している。ユーチューブで公開しているビデオへのアクセスが急増しているように、多くの現地住民によるこのプロジェクトへの認知が広がっており、効果は上がりつつある。

収支実績：費用861円



図 1. ポーンペイ人への聞き取り



図 2. ポーンペイ人への聞き取り

### ◆インターネットを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信

当 NPO は、現在、フェイスブックとユーチューブを利用して、NPO 活動やオセアニアの文化や歴史に関する情報を発信している。

平成 26 年 5 月に開設した NPO のフェイスブック・ページ（以下「FB ページ」、<https://goo.gl/6wjZYV>）では、毎週 1 回弱程度（計 40 回）オセアニアの伝統文化・歴史に関する情報や NPO の活動について英語と日本語で発信している。事業年度末の段階で 9,887 人（昨年度末 8,543 人）がファンとして登録しており、昨年度からのファン数の増加率は 15.7%（昨年度 11.7%）となっている（図 3）。このファン数は、オセアニア地域の文化的分野で活動している組織の中では有数の数となっている。内訳としては、多くのミクロネシア人が出稼ぎに行っている米国・米領グアムで 50%、ソロモン諸島 6%、北マリアナ連邦・オーストラリア・ミクロネシア連邦・日本が 5%、その他オセアニア諸国で 16%となっている（図 4）。



図 3. 今年度の FB ページのファン数の増加

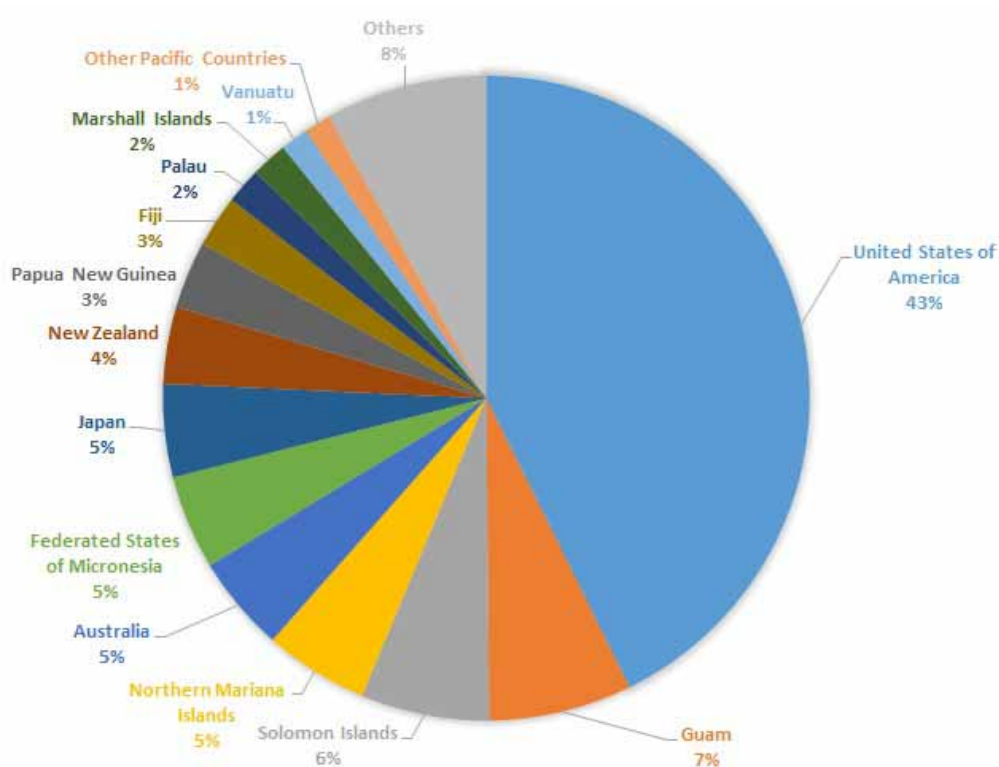


図 4. NPO の FB ページのファンの国・地域別内訳

またこのFB ページへの投稿より広い内容を投稿したり、オセアニアの人々自身による情報・意見交換への参加を促進したりできるように、平成 27 年 3 月に開設したフェイスブック・グループ「Pasifika Renaissance」(<https://goo.gl/SwHbGt>) も、事業年度末で 4,053 人（昨年度末 4,087 人）（フェイスブックのシステムの変更により減少している）がメンバーとして登録しており、活発に活用されている。また同年 7 月に日本人向けのおセアニア関係の情報交換の場として開設した「オセアニアの島が好き！」には 193 人（188 人）が参加している。

当NPOは、教育普及活動の一環として、ユーチューブ・チャンネルでさまざまなビデオを公開しており、国内外で行われるオセアニアに関する講演や研究発表などをビデオで記録する活動やさまざまな機関で保管されているビデオの公開を働きかける活動を継続して行っている。前者に関しては、長岡代表理事がポーンペイ滞在中に地元や訪問中の研究者にミクロネシア短大で講演をお願いし、それを撮影している。後者に関しては、ヤップ州ラジオ局に保管されていた昔話や伝統舞踊の音楽の資料を共有して下さり、今後公開する予定である。

今年度は、長岡代表理事がポーンペイで撮影した口頭伝承の語り（16本）、文化的な活動（4本）、講演（7本）、ラジオ番組（後述）（7本）のビデオにくわえ、メラネシア芸術文化祭のパフォーマンスのビデオ（後述）（41本）を共有した。公開されているビデオは、今年度末で394本（昨年度末319本）に増えた。こうした公開するビデオの増加にともない、今年度は視聴回数も473,202回（昨年度260,905回）、1日平均1,296.4回（昨年度714.8回）と激増した（図5）。語りの動画を含めこのチャンネルで公開している動画は、ミクロネシア連邦に関連するものが大部分であるため、視聴者もミクロネシア人が中心になっていると思われ、米国領42.9%・ミクロネシア連邦18%で全体60.9%を占める。NPOメンバーの井上雄二・磯崎淑子氏がビデオの編集に協力した。

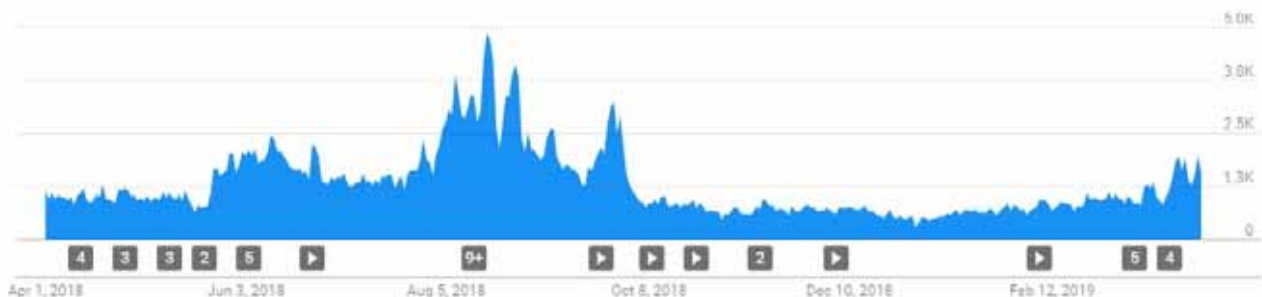


図 5. 今年度の NPO ユーチューブ・チャンネルの日別視聴回数

#### ◆ポーンペイ島でのラジオ番組の制作

当 NPO は、失われつつある昔話の継承や文化遺産の重要性の啓発に貢献するため、4 月からポーンペイ州歴史保護局と協働して、ポーンペイ島で新しいラジオ番組を始めた。現在、ポーンペイ島では、ラジオが唯一島全体をカバーするメディアで、この週替わりの番組は、毎日午後 8 時に 10 分から 20 分程度、放送されており、同局のスタッフが過去に州教育局がつくったポーンペイの神話やおとぎ話の小冊子から読んだり、伝承記録プロジェクトで撮影した昔話の語りを流したりしている。この番組についても現地住民からの認知は広がりつつある。

長岡代表理事と同局・アシスタント・パブリック・エドューケーターのジェイソン・バルナバスの記事「ポーンペイで新しいラジオ番組が始まりました！」が、ミクロネシアの地元の新聞『The Kaselehlie Press』に掲載された（図 6）（この記事の PDF ファイルは、<https://goo.gl/qpmVQU> でアクセスできる）。この記事が、無形文化財に関する『ICH News』とサイパンの新聞『The Marianas Variety』に掲載された。

# New radio program “Nahlikend En Leng” started in Pohnpei!

*Takuya Nagaoka (Executive Director, NGO Pasifika Renaissance) and Jason Barnabas (Assistant Educator, Pohnpei State Historic Preservation Office)*

The Pohnpei State Historic Preservation Office and NGO Pasifika Renaissance has launched a new radio program “Nahlikend En Leng” in Pohnpei from April 25th! This is the second collaborative project of the two organizations, as we began to film Pohnpeian Elders' stories together to share videos on YouTube (<https://goo.gl/gnoiEo>) from last year.

This weekly program is aired on V6AH at 8 PM every day. We read aloud Pohnpeian legends, tales and historical accounts in the Pohnpeian language and broadcast Pohnpeian Elders' stories recorded during our video

documentation project. The name of the program, Nahlikend En Leng, is the honorific title of “parent” (in Pohnpeian) or brown noddly tern (*Anous stolidus*). The bird bears news both good and bad, such as the loss of a loved one or other important happenings.

Many older Pohnpeians have fond childhood memories of listening to stories told by elderly relatives before bed. This practice, however, has been largely lost in Pohnpei due to the spread of new media such as videos and games and the decline of the younger generation's interest in traditional culture.

In Pohnpei, the radio (V6AH) is currently the only media covering the whole island of Pohnpei and its outer islands. This program aims to pass down important Pohnpeian stories to younger generation and to promote the importance of cultural heritage. We hope the program will spark conversations about their culture and history during family gatherings and sakau sessions.

If you are not in Pohnpei, you can listen our programs on YouTube: <https://goo.gl/ykkK9CZ>. We would like to thank Pohnpeian Elders, the COM-FSM Library, the Department

of Education and the Pohnpei Public Broadcasting Corporation (V6AH) for their assistance. If you like to contribute stories to our radio program and video documentation project, please phone us at 320-2652. Stay tuned!



図 6. ミクロネシアの新聞に掲載されたラジオ番組の記事

## ◆ポーンペイ島のヤムイモ祭宴に関するオンライン展示

当 NPO の長岡代表理事は、ユネスコの関連機関である ICHCAP の依頼を受け、オンライン展示『ポーンペイの儀礼的なヤムイモ祭宴』を「グーグル芸術&文化」上に制作した (<https://goo.gl/K8hTBP>) (図 7)。この祭宴は、変容するポーンペイ社会において人々が文化的なアイデンティティを情熱的に表現し、楽しむ重要な機会の一つになっている。オンライン展示は、無形文化遺産の振興のための、ICHCAP とグーグルの提携事業である。

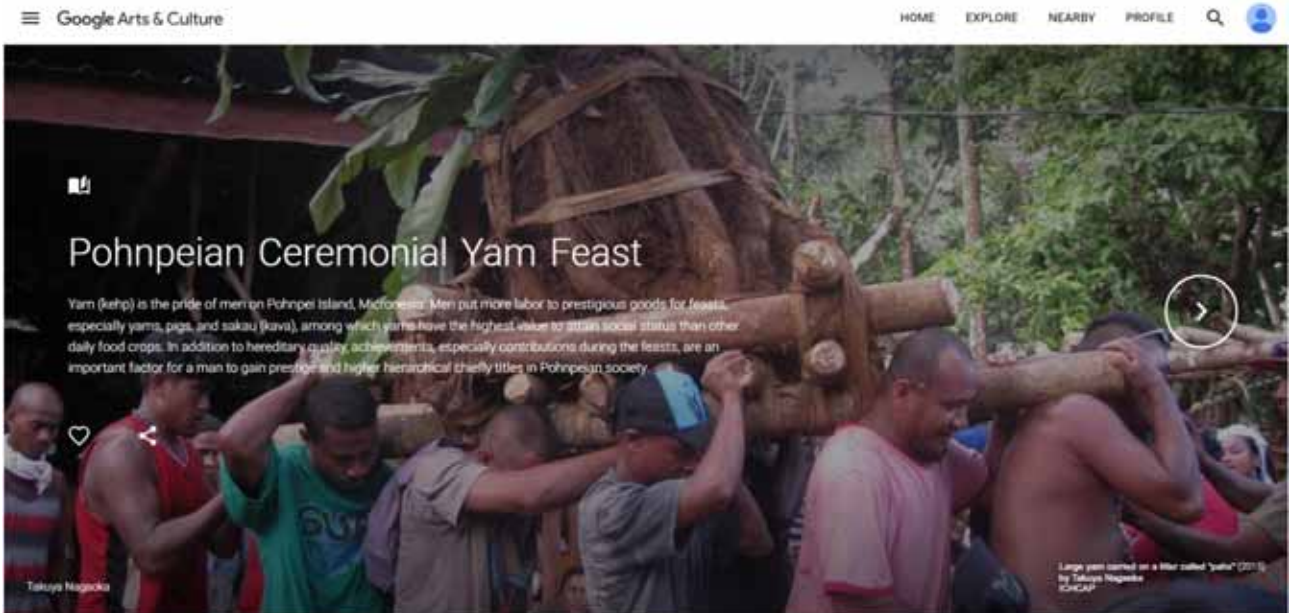


図 7. 「グーグル芸術&文化」上のオンライン展示『ポーンペイの儀礼的なヤムイモ祭宴』

## ◆ポーンペイ州の伝統文化教育の教材の作成

平成 27 年より作成を開始したポーンペイ州の伝統文化教育(ポーンペイ・スタディーズ)の教材(歴史・文化の副読本、年表のポスター、教師用資料手引、州教育局 HP での資料共有)を州教育局と協働

して製作するプロジェクトのプロポーザルをもとに、昨年には教育局長と話し合いを行い、このプロジェクトを協働で行うことに同意した。また昨年にミクロネシア連邦歴史保存局を通して申請したユネスコへの助成金も採択され、平成31年に実施が決まった。これに基づき、今年度は教育局との詳細の話し合いに加え、各島の歴史の副読本を協働して制作する小学校の先生と作成に取り組んでいる。

収支実績：費用3,961円

#### ◆「パシフィカ人間国宝」キャンペーン

当NPOは、平成31年1月に「パシフィカ人間国宝」というキャンペーンをフェイスブック上で開始した。これはオセアニアの人々に伝統文化に関するすばらしい知識や技術を持っている人を推薦してもらい、その人に関する記事をNPOのフェイスブックページで公表するというキャンペーンである。この評価がオセアニアの島々のユニークな生きた文化遺産への感謝につながり、若者の間でのそうした「クール」な伝統の継承を促進することを目的としている。この記事に関しては、フェイスブック上では多くのコメントを得ている。

#### ◆ポーンペイ島での文化的な活動の記録

長岡代表理事は、ポーンペイ島に滞在中に伝統的な踊り、解放記念日の行事、パンノミ餅の儀礼、歴史的な本を題材とした芝居、オケアノス・カヌーの到着といった文化的な活動の映像での記録を行い、それらのビデオは当NPOのユーチューブ・チャンネルで公開している。

#### ◆メラネシア芸術文化祭での撮影

平成30年7月、ユネスコの関連機関であるICHCAPが主催した「2018年太平洋における無形文化遺産の若い実践者のネットワーク・ミーティング」への参加するためにソロモン諸島を訪れていた長岡代表理事は、同時期に首都ホニアラで開催された第6回メラネシア芸術文化祭において、伝統的な踊りやその他のパフォーマンスを撮影し(図8・9)、41本のビデオをユーチューブ(<https://goo.gl/55FLgV>)で公開した。このイベントは、メラネシアの伝統・現代芸術を振興する目的で、1998年より4年に1度行われている。



図8. パプアニューギニアのグループによるパフォーマンス



図9. フィジーのグループによるパフォーマンス

#### ◆出張授業

長岡代表理事は、ポーンペイ滞在中に学校側からの要請を受け、ポーンペイ・カトリック小学校の2年生にミクロネシア人の起源、オーミネ小学校とコロニア小学校の6年生にミクロネシア人の起源（図10）とレンゲル島での考古学調査の成果（後述）についてのプレゼンテーションを行った。



図10. ポーンペイ・カトリック小学校での出張事業

#### ◆日本国内におけるオセアニアの伝統文化、歴史、文化遺産に関する教育

日本人を対象にしてオセアニアの文化や歴史や当NPOの活動に対する理解を深めるため、またオセアニアの人々へ情報を提供するために、日本語版・英語版のNPOのホームページの開設を準備中である。現在までにホームページを制作するために必要な情報や材料など準備は整いつつあり、法人会員であるThe First Ferryによって製作を財政的に支援していただくことになった。昨年度より担当する業者と具体的な意見交換を開始しており、来年度は本格的に製作を開始する予定である。

#### ②オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業

##### ◆ポーンペイ州歴史保存局との協働・技術協力

前述したように、ポーンペイ州で文化財行政を担当している州歴史保存局と一緒に口頭伝承記録とラジオ番組の制作を協働して行っている。これは将来的に同局によりこのような事業が行われるようになることを目指しての技術協力である。また随時、同局の要請に応じてさまざまなアドバイスや情報なども提供している。

##### ◆世界遺産ナンマトルに関する技術協力

長岡代表理事が国際チームの一員として協力をを行い、2016年に世界遺産に登録されたナンマトル遺跡の保存・管理に関する助言・協力をミクロネシア連邦・ポーンペイ州歴史保存局に対して随時行っている。米国大使歴史保存基金からの助成金を得た米国のグループが、遺跡の保存計画を作成することになり、ポーンペイ島を訪れたメンバーに情報提供を行った。

ナンマトル遺跡には、現地や外国からの訪問者に対する施設がなく、ポーンペイ州政府は古代の遺物の展示やビデオなどを通じてこの重要な歴史遺産に対する訪問者の理解を深め、持続可能な観光を充実させるためビジターセンターの建設を計画した。長岡代表理事は、州政府による日本政府の草の

根文化無償資金協力案件へのビクターセンター建設の申請に協力を昨年度より一般財団法人国際協力推進協会からの業務委託として行った。この案件（181,394米ドル）は、日本政府の審査に合格し、平成31年1月に契約の署名式が、ポーンペイの日本大使公邸で行われた。この事業は4月から開始される予定で、当NPOは継続して協力を行う予定である。

収支実績：収益 450,000 円

#### ◆ポーンペイ州ソケース山の公園化に対する技術協力

一昨年度、ソケース山を歴史・リクリエーション公園として整備する事業において、当NPOが契約の業務として整備計画・マネジメントプラン・ツアーガイド・マニュアルの作成を担当することになった。昨年度は、整備計画の最終案に関するプレゼンテーションを政府関係者に対して行い、承認を得た。今年度は、マネジメントプラン・ツアーガイド・マニュアルを提出した。今後、設計・工事の管理を行うため、再契約を行うことになっており、継続して発注業者の選定などに協力している。

収支実績：収益 2,128,083 円、費用 1,980,333 円

#### ◆ポーンペイ州レンゲル島の観光整備に対する技術協力

ソケース山公園化事業と同様にミクロネシア連邦観光開発基金を用いた事業として、戦跡を中心とする遺跡が多く存在するレンゲル島の観光整備に契約の業務としての協力を州政府から依頼されており、説明板の作成を担当する予定である。今年度は全体的な見積もりの作成のための政府関係者の下見に同行し、整備に対するアドバイスなどを行った。

#### ◆ポーンペイ州カルチュラルデーへの協力

毎年、ポーンペイ州で開催されるカルチュラルデーは、伝統文化を振興する良い機会であると捉え、当NPOは昨年度より協力を始めた。昨年度4月には、長岡代表理事が執筆した「ポーンペイでは2018年カルチュラルデーが祝われました」という記事が、ミクロネシアの地元の新聞『The Kaselehlie Press』に掲載されました（<https://bit.ly/2EyQE9H>）。今年度は、昨年開設したフェイスブック・ページ（<https://goo.gl/7kM8Fm>）での広報、行事の撮影などで協力を行った。

収支実績：費用 3,961 円

#### ◆ポーンペイのNGOの記録・出版プロジェクトへの技術協力

平成27年に長岡代表理事は、ポーンペイのNGO コウシャップ・ロスティのピーターソン・シャム理事の要請を受け、彼らが計画している失われつつある口頭伝承や伝統文化を記録・出版する事業を支援することになり、ニュージーランド政府の太平洋開発保全基金への助成金の取得から全行程にわたって協力した。長岡代表理事が、編集・監修を行った『ポーンペイ：継承の本』という本が、平成30年6月に出版された。ポーンペイ語で書かれているこの本には、ことわざ、古語、チャント、神話、他の伝統に関わる情報が含まれている。PDFとKindleのファイルが<https://goo.gl/kXBYoF> から無料でダウンロードでき、紙媒体は、<https://goo.gl/JXYSiD> で購入できる（この販売から印税は発生しない）。この出版には、磯崎淑子氏が技術的な協力を行った。今年度末までに217回の電子書籍のダウンロードと36冊の印刷書籍の購入があった。今後さらに普及させるため、紙媒体のポーンペイでの販売も計画されている。

また長岡代表理事とこの本の著者であるシャム理事による「ポーンペイの伝統文化に関する本が出版されました！」という記事が、ミクロネシアの地元の新聞『The Kaselehlie Press』に掲載された（図11）（<https://bit.ly/2EyQE9H>）。

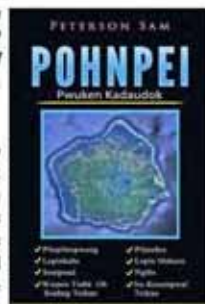
収支実績：収益 13,502 円

## Book on Pohnpeian traditional culture has just published!

*Tikuya Nagaoka (Executive Director, NGO Pasifika Renaissance) and Peterson Sam (Director, NGO Kousapw Roasdi)*

We are very happy to announce that the book "Pohnpei: Pwuken Kadaudok" (Volume 1) has just been published! This book was initially planned by Peterson Sam, one of the Directors and Co-Founders of Kousapw Roasdi, a Pohnpei based NGO. The idea was inspired by his intuition in forming a group or forum on Facebook called "LEPINKAHS / LEPINMAHSEN" (currently 1,557 members), where people discuss about Pohnpeian oral heritage such as proverbs (lepinkahs) and archaic expressions (lepin mahsen). Tikuya Nagaoka, Executive Director of NGO Pasifika Renaissance, who has been involved in cultural preservation and revitalization on Pohnpei for two decades, had assisted the whole process of this Kousapw Roasdi's endeavor since 2016, from securing a grant to serving as an editor of the book.

This book is intended to preserve Pohnpei's



disappearing oral traditions and traditional culture. It is written in the Pohnpeian language and includes proverbs, archaic expressions, chants (ngihs), legendary tales (soupsod), and other knowledge (e.g., Pilepilenpwong, Pilerelre, customs related to sakan). It is for Pohnpeian children and adults, on Pohnpei and overseas and is meant to enhance cultural pride and empower communities.

You can download a free copy in PDF and Kindle formats from <https://goo.gl/gng6SL>. A paperback book is also available for purchasing in Amazon.com (<https://goo.gl/c19d45>) for \$5.38 (please note the author will not receive any royalty from the sales of the book). This project was funded by the Pacific Development and Conservation Trust (established by the New Zealand Government).

We hope to continue to working on new volumes to cover other important topics in crucial need of preservation for future generations and would like to thank all the people who supported the project.

図 11. ミクロネシアの新聞に掲載されたポーンペイの伝統文化の本の出版に関する記事

### ◆「太平洋における無形文化遺産の若い実践者のネットワーク・ミーティング」への参加

ユネスコの関連機関である ICHCAP が主催してソロモン諸島ホニアラで開催された「太平洋における無形文化遺産の若い実践者のネットワーク・ミーティング」に長岡代表理事は1セッションのファシリテーターとして参加した(図 12)。このミーティングでは、参加者はメラネシア地域の関係者であったが、有益な意見交換・ネットワークの拡大を行うことができた。ミーティングを撮影したビデオは、当 NPO のユーチューブで公開する予定である。

収支実績：費用 2,333 円



図 12. ミーティングの様子



### ③オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業

#### ◆ポーンペイ島でのカルチュラル・ツーリズムの促進

昨年にポーンペイ島でのカルチュラル・ツーリズムの企画について話し合っていた旅行業者が、今年倒産したため、今後この事業について見直しをする必要がある。

### ④その他目的を達成するために必要な事業

今年度は実施しなかった。

### ⑤広報活動

#### ◆ニュースレター

広報活動の一環として、英語と日本語のニュースレター『パシルネ・ニュースレター』を発行している。平成 28 年度の活動を報告する英語版の第 2 号 (<https://goo.gl/Nmyw9L>) を 4 月に発行した(日本語版は、<https://goo.gl/uR9pzc> からダウンロードできる)。ニュースレターの執筆は長岡代表理事が行ったほか、制作にはプロボノのガリー・スコット氏(英文校正)とメンバーの磯崎淑子氏(編集)が協力した。今後、昨年度と今年度分を早急に製作する必要がある。

#### ◆その他の広報活動

サイパンの新聞『Marianas Variety』の太平洋・地域のニュース欄に掲載される「ミクロネシアのアイコン」という記事の文化関係の部門で毎月、長岡代表理事が一人として選ばれた。

当 NPO の活動を紹介するために執筆した、長岡代表理事のカルチュラルデー、ラジオ番組、伝統文化についての本(前述)、レンゲル島での考古学調査(後述)についての英文の記事が、ミクロネシア連邦の新聞『The Kaselehlie Press』に掲載された。

### ⑥その他の活動

#### ◆ポーンペイ島での新しい考古学調査

長岡代表理事が調査チームに加わっている、新しい考古学調査プロジェクト「オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究」(科学研究費(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)、研究代表者:小野 林太郎(東海大学)、18KK0019)が、ポーンペイ島で平成 31 年より 4 年間実施されることになり、当 NPO は現地住民に自分達の歴史について興味を持ってもらう良い機会と



図 13. 発掘の様子



図 14. 小学生に対するプレゼンテーション

捉え、2月の調査に広報などで協力した。この調査は、まだ実態の解明されていない初期居住期に焦点を当て、ポーンペイ州歴史保存局と協働して行われる。1週間の発掘調査では、ボランティアを募集し、テリーナ・エームス教授に引率されたミクロネシア研究コース専攻のミクロネシア短大の20名の学生を含め、多くの人々が参加した（図13）。調査の終了後に行われた出土遺物の展示には、2小学校の8年生のグループを含め、100人以上の見学者が訪れ、長岡代表理事がパワーポイントによるプレゼンテーションを行い、出土遺物についての説明を行った（図14）。

3月には、長岡代表理事、小野准教授、ジェyson・レベーン氏（ポーンペイ州歴史保存局）が執筆した、この調査についての「ポーンペイで始まった新しい考古学調査プロジェクト」という記事が、ミクロネシアの新聞『The Kaselehlie Press』に掲載された（この記事のPDF版は<https://bit.ly/2K6F09I> よりアクセスできる）。

## (2) 特定非営利活動に掛かる事業

### ①物品販売事業

今年度は実施しなかった。

### ②コンサルタント事業

今年度は実施しなかった。

## 3. 活動実績報告

### (1) 特定非営利活動に係る事業

| 定款の事業名                           | 事業内容                                | 実施日時        | 実施場所     | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額(千円) |
|----------------------------------|-------------------------------------|-------------|----------|--------|--------------|---------|
| オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業 | ポーンペイ州での口承伝承の記録する                   | 4月～6月、1月～3月 | ポーンペイ    | 2人     | 30,000人      | 0       |
|                                  | インターネットを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信する      | 通年          | 日本       | 3人     | 不特定多数        | 0       |
|                                  | ポーンペイ州の社会科教材を作成する                   | 通年          | 日本・ポーンペイ | 2人     | 30,000人      | 3       |
|                                  | 日本国内におけるオセアニアの伝統文化、歴史、文化遺産に関する教育を行う | 通年          | 日本       | 3人     | 不特定多数        | 0       |
| オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業            | ヤップ島石貨遺跡の世界遺産登録への技術支援を行う            | 4月～9月       | 日本・ポーンペイ | 1人     | 11,200人      | 0       |
|                                  | ポーンペイ島ナンマドール遺跡の世界遺産登録への技術支援を行う      | 通年          | 日本・ポーンペイ | 1人     | 30,000人      | 0       |

|                            |   |        |          |    |         |       |
|----------------------------|---|--------|----------|----|---------|-------|
|                            | ポーンペイ島ソケース・マウンテンの公園化に対する技術協力            | 通年     | 日本・ポーンペイ | 3人 | 30,000人 | 1,980 |
|                            | ポーンペイの NGO の記録・出版プロジェクトへの技術協力           | 通年     | 日本・ポーンペイ | 3人 | 30,000人 | 0     |
|                            | 「太平洋における無形文化遺産の若い実践者のネットワーク・ミーティング」への参加 | 7月     | ソロモン諸島   | 1人 | 30人     | 2     |
| オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業 | ポーンペイ島でのカルチュラル・ツーリズムを促進する               | 通年     | 日本・ポーンペイ | 5人 | 30,000人 | 0     |
| その他目的を達成するために必要な事業         | 随時目的達成のために行うその他の業務                      | 事業実施せず |          |    |         | 0     |

## (2) その他の事業

| 定款の事業名    | 事業内容          | 実施日時   | 実施場所 | 従事者の人数 | 支出額(千円) |
|-----------|---------------|--------|------|--------|---------|
| 物品販売事業    | 現地の特産品などの販売   | 事業実施せず |      |        | 0       |
| コンサルタント事業 | その他のコンサルタント業務 | 事業実施せず |      |        | 0       |

## 4. 財政

今年度の収入は、年会費の11万円(昨年度21.5万円)、事業収入の277.7万円(232万円)を中心として297万円(259万円)であった。それに対し、今年度の支出は、事業費の198.5万円(166万円)(それぞれの事業の収支の内訳は3.活動実績報告を参照)と管理費の0.3万円(1万円)で、合計198.9万円(167万円)であった。ソケース山公園化事業からの収益のため、昨年度に引き続き98.1万円(92万円)の黒字となったが(「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」「注記」参照)、通年では153.1万円(169万円)の赤字となっている。ただ会員数も微増に留まっており、年会費の納入率も38%(67%)であり、一事業の収入による一過性のものであることを注意する必要がある。公的な助成を得づらく、収益事業の展開が難しい分野での活動であるため、会費納入の促進、新規会員の開拓、広報活動の強化、助成・受託事業の獲得、収益事業の模索などをはかり、財政の安定化に一層の努力が必要である。

国内で「オセアニア」・「文化」関係で申請できる助成金は限られているが、今年度も計画しているプロジェクトに対しては可能性のあるものに申請した。ポーンペイ州歴史保存局へ提出した『『モートロック諸島人のへの移住』の出版』と「トロプロプルでの考古学調査」というプロジェクトに対する助成金の申請は、米国国立公園局による予算の承認が遅れているが、平成31年度に承認される予定である。NPOのメンバーである藤木紀子氏が、一般財団法人日本国際協力システムのNGO支援事業に提出した「ミクロネシア連邦における教育の質向上のためのICT活用を目的とした現地教員へのICT教育」は不採択であった。またユネスコの参加プログラムにミクロネシア連邦歴史保存局を通して申請した「ポーンペイ・スタディーズの補助教材の作成」と「カロリン諸島伝統的航海術教育の記録」は、

採択された。前者については、作業を開始しており（前述）、後者は関係者と連絡をとりつつ、来年度に開始する準備を進めている。

## 5. 組織運営

NPO のメンバーも各地に散らばっているため、主に SNS チャットワークを通して話し合いや情報の共有を随時行っているほか、理事会には理事以外のメンバー全員もオブザーバーとして参加できるようにし、意識の共有をはかっている。

今年度の決算書類は、当 NPO のプロボノの室谷裕貴氏が作成した。監事による業務・会計監査の結果、NPO は適正に運営されていると認められた。今後監事から提出された意見書で挙げられ、特に設立以来の課題となっている会計に関する提言に基づいて、組織運営の確立を目指す予定である。

## 6. 役員・顧問

昨年度から第 2 期目の役員・顧問は以下の通りである。

### ◆役員

代表理事：長岡拓也（オークランド大学名誉研究員）  
副代表理事：齋藤弘之（安城市教育委員会文化振興課）  
理事：関根久雄（筑波大学教授）  
監事：井上郁子（団体職員）

### ◆顧問

川嶋正和（NPO 法人ミクロネシア振興協会事務局長）  
小林泉（大阪学院大学教授）  
白川千尋（大阪大学准教授）  
須藤健一（国立民族学博物館館長）  
竹川大介（北九州市立大学教授）

## 7. 会員・プロボノ

事業年度末で正会員は 23 名（昨年度末 23 名）、賛助会員は 21 名（19 名）、法人会員は 4 法人（3 法人）で、会員数が昨年度末より微増している。正会員のうち 15 名が SNS チャットワークでの話し合いに参加している。また 5 名のプロボノの方に会計・デザイン・英文校正で協力していただいている。

会員・プロボノの皆さまには、この場を借りまして、感謝の意を表したい。

### ◆正会員（以下、あいうえお順・敬称略・氏名を公表することに同意いただいた方のみ）

磯崎淑子、井上雄二、川嶋正和、小西潤子、小林泉、小林房代、齋藤弘之、佐々木宏夫、白川千尋、須藤健一、関根久雄、高瀬浩一、竹川大介、長岡拓也、長島怜央、藤木紀子、Ben Schultz、松本いく子、宮澤京子、門田修、ルルケド薫、Yumi Schultz、横山敬子

### ◆賛助会員

秋田朋子、市川敬子、井上郁子、巖淵光洋、上木原圭、大野志穂、大野康雄、川部浩子、小金丸梅夫、小西哲也、白川博章、白川由里、武田貴子、楯あかね、豊田悟、西村岳洋、古澤拓郎、益田兼房、渡辺淑子、渡部悟

### ◆法人会員

株式会社森覚貫誠堂 ([www.morikaku.org/](http://www.morikaku.org/), [www.facebook.com/morikakukanseidou](https://www.facebook.com/morikakukanseidou))

ジェイピーエムズ株式会社 (<http://www.jpms1125.com/>, [www.facebook.com/jpms1125/](https://www.facebook.com/jpms1125/))

一般財団法人国際協力推進協会 ([apicinfo@apic.or.jp](mailto:apicinfo@apic.or.jp))

The First Ferry (<http://www.thefirstferry.com/>, [www.facebook.com/thefirstferrydubai](https://www.facebook.com/thefirstferrydubai))

◆プロボノ

室谷裕貴（会計）、Davidson Syne（デザイン）、Garry Scott、David Vega、Josh Levy（英文校正）

8. 助成事業によるパートナー

| 団体・機関名                                 | 事業名・事業内容  |
|--|---|
| ポーンペイ州資源開発局<br>平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月 | ポーンペイ島ソケース山公園化に向けて整備計画・マネジメントプラン・ツアーガイド・マニュアルの作成を行う           |
| ミクロネシア連邦歴史保存局<br>平成 31 年 1 月～令和元年 12 月 | ポーンペイ州の伝統文化教育の教材の作成   |
| 一般財団法人国際協力推進協会<br>平成 30 年 1 月～6 月      | ポーンペイ州政府が、日本大使館に提出するナンマトル・ビジターセンター建設に関する草の根文化無償の案件形成に協力する業務委託 |

9. 総会・理事会

◆平成 30 年 6 月 9 日 第 6 回理事会

- (1) 第 1 号議案 代表理事による前年度のミクロネシアでの活動に関する件
- (2) 第 2 号議案 平成 30 年度の事業計画書に関する件
- (3) 第 3 号議案 平成 30 年度の活動予算書に関する件
- (4) 第 4 号議案 長期借入金に関する件
- (5) 第 5 号議案 今後の運営に関する件
- (6) 第 6 号議案 その他

◆平成 30 年 6 月 23 日 第 3 回通常総会

- (1) 第 1 号議案 平成 29 年度の事業報告に関する件
- (2) 第 2 号議案 平成 29 年度の活動決算に関する件
- (3) 第 3 号議案 平成 30 年度の事業計画の報告に関する件
- (4) 第 4 号議案 平成 30 年度の活動予算の報告に関する件
- (4) 第 5 号議案 定款の変更に関する件
- (4) 第 6 号議案 監事の選任に関する件
- (5) 第 7 号議案 その他